

令和 3 年度 県立那珂高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	・互いに尊重し合い切磋琢磨しながら、よりよく生きるための資質・能力を育てる学校(敬愛) ・基本的生活習慣を確立し、自主性・自立性を育みながら、希望する進路を実現する学校(誠実) ・国際理解教育を推進し、異文化を理解し、グローバルな視点に立つ人材を育成し、地域社会に貢献する学校(進取)		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
[成果] 生徒理解に基づく指導を行うことで、生徒が落ち着いた環境の中で、充実した学校生活を送っている。特に、制服のきちんとした着用が定着した。 生徒一人一人の個性及び目標を尊重して進路指導を推進した。大学進学率は、昨年と比べ増加している。 部活動等において、活発な活動により、関東大会、全国大会に出場している部が現れ、着実に成果をあげることができた。 [課題] 国公立大をはじめとする四年制大学への進学率をさらに増加させるとともに、公務員試験合格者数を増やす。 部活動や課外への参加率をさらに増やす。 オーストラリア短期留学を実状に合わせて実施計画を立てる。	生徒の主体的な学びと確かな学力の定着を目指す授業改善・学習評価の充実	① 授業時間の確保とPDCAサイクルによる授業や学習指導法の改善 ② 評価方法の工夫・改善 ③ 家庭学習の習慣化と時間増のため、学習方法の指導の工夫 ④ 主体的な学びにつながる課外授業の充実と積極的参加促進 ⑤ 学校図書館の積極的活用	A
	高い目標へ向けた主体的な進路選択と教師の支援を含めた達成	⑥ 進路意識の高揚を図るための発達段階に応じた進路指導 ⑦ 進路情報等の収集・分析による計画的な進路指導 ⑧ 個別面談の充実 ⑨ 出口指導の質的向上	A
	主体的で自律的な生活態度の確立	⑩ 基本的生活習慣の定着と規範意識の涵養 ⑪ 生徒理解に基づいた生活指導の推進 ⑫ 教育相談による心のケアの充実 ⑬ 家庭や地域社会及び関係機関との密接な連携による問題解決	B
	主体的で活力ある学校生活の実現	⑭ 学校行事やホームルーム活動等への積極的な参加の推進 ⑮ 生徒会活動や各種委員会活動の活性化 ⑯ 部活動等への積極的な参加促進 ⑰ 主体的に探究活動に向かう姿勢の育成	B
	日本や外国の文化に対する関心・理解の深化と、他者を尊重する態度の育成	⑱ 海外短期留学や異文化理解活動の円滑な実施 ⑲ 多様な交流事業等を通して国際理解教育の促進とグローバルな視点を持つ人材の育成 ⑳ コロナ禍の中での国際理解教育の推進	B
	働き方改革の推進	㉑ 一人一人が勤務時間を意識した働き方 ㉒ 業務の整理と効率化	A

三つの方針		重点目標	評価		次年度への主な課題
三つの方針	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	①互いに切磋琢磨しながら、よりよく生きるための資質・能力を育てる ②基本的生活習慣を確立し、自主性・自立性を育みながら、希望する進路を実現する。 ③国際理解教育を推進し、異文化を理解し、グローバルな視点に立つ人材を育成し、地域社会に貢献する。	B	B	卒業時を見通した取り組みの設定
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	①「何のために学ぶのか」を意識することで、自らの意志で進路を主体的に選択する資質・能力を育成 ②生徒が自主的に活動し、生徒がいきいきと学校生活を送れる活力ある多彩な特別活動の実践 ③海外派遣や海外からの訪問団の受け入れ等をとおして、異文化を理解し、グローバルな視点をもった人材育成と国際理解教育の推進 ④家庭や地域社会、学校間で連携、協働など、学校外の資源を活用した学校教育活動の充実	B		教育活動のビジョンを校内・学校外諸機関と共有する体制構築
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	①地域や現代社会の諸問題に関心を持ち、積極的に探究しようとする意欲のある生徒 ②自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒 ③社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事や部活動に積極的に取り組む意欲のある生徒	B		入学希望者や中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像を明示
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価観点	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	・「生徒自ら考える」授業を展開し、基礎力の定着と応用力を育成する。	・シラバスや学習指導計画に基づいて、学習内容と進度を適切なものとする。	①②⑬	A	・タヴレット導入に伴う更なる授業改善
		・各種調査の結果を踏まえ、科目の特性に応じた効果的な学習方法を指導する。	③	A	
		・少人数授業(国数英)の他、様々な授業形態を工夫して、生徒一人一人によりきめ細かい指導を実施し、レベルに応じて学力を向上させる。	①②③④⑤	A	
		・課外授業を充実し、生徒を積極的に参加させる。	④	A	
		・苦手科目の早期発見、早期改善に努める。	③	A	
教科	国語 ・文学的な教材(特に小説)論理的な教材(特に評論)を中心に学び、現代文を読解する力を養う。 ・価値の高い古典教材を学ぶとにより、国際社会に通用する、自国の文化と伝統について考察と理解を深める。	・国語の基礎学力となる漢字力と語彙力を身につけるために、積極的に辞書を引かせ、定着させるテスト等を行う。	①②③	A	・授業におけるICTの効果的な利用方法の研究と教科内での情報共有。 ・基礎学力の定着。
		・課題等を工夫することにより、予習・授業・復習の学習サイクルを確立させる。	①②③	B	
		・書くこと、話すことに慣れ、具体的に自己表現できる力を身につけることができるようにする。	①②③④⑤	A	
		読書週間を設け、自主的に選書し読書する習慣をつくる。	⑤	A	

科	地歴公民	・基礎学力の向上に努める。 ・歴史的・地理的事象に対する関心を高め、自発的思考力を育てる。 ・現代の社会への関心を高め、自発的思考力を育てる。	・自作プリント等を活用し、授業で扱いテーマへの理解を深める。 ・身近な素材を教材化したり、図説資料や視覚教材などを効果的に用いることで、興味関心を高める。	①②③ ①②③	A A	A	学年進行でICTを授業に取り入れていく
			・新聞などを活用し、生徒に国際社会や政治・経済への関心を高める。	①②③	A		
	数学	・基礎学力の向上を図る。 ・数学のよさを認識させ、積極的に活用する態度、判断力を育てる。	・授業や教材における基礎・基本と応用の配分に配慮しつつ、進度を適切なものとする。	①②③	A	A	・ICTの使い方を考える ・より一層の基礎学力の定着を図る
			・学習内容の定着を図るための方策を徹底する。（授業展開、課題、小テスト等）	①②③ ⑤	A		
			・課外授業により学力上位層の実力を養成する。	④	A		
			・少人数指導によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、基礎学力の向上を図る。	①②③	A		
	理科	・基礎学力の向上を図る。 ・家庭学習習慣の定着に努める。 ・授業への改善に努める。	・授業目標に沿う授業計画を立案する。	①②③	A	A	自主的な学習習慣の育成
			・家庭学習課題を与え、授業内容の予習・復習や家庭学習の習慣をつけさせる。	①②③	A		
			・ICTを活用し、自ら学び、探究する力をつけさせる。	①②③ ⑰	A		
			・実験指導の充実を目指し、実験内容、方法等について、工夫改善に努める。	①②	A		
	体育	・体力の向上を目指す。 ・運動技能の向上を目指す。	・体力テストを通し、生徒自身の体力を把握する。	⑥⑩⑪	B	B	体力テストの数値から体づくり運動の工夫をする。 選択授業において生涯スポーツへつながるような授業展開をする。 体育施設でICTの活用が可能にして欲しい。
			・単元として、体ほぐし運動を実施する。	⑪	B		
			・各種目の特性を理解し、課題解決のための運動を行う。	①②③	B		
			・ルールや審判法を学ぶ。	③⑤	B		
	保健	・関心・意欲態度の確立に努める。	・クラスマッチなどの体育的学校行事の企画運営を通して、運動の楽しさや喜びを味わえるようにする。	⑭⑮	A	B	ICTの活用においてさらなる創意工夫が必要である。
			・自己の役割を把握し、公正、協力、責任などの態度を身につける。	⑭⑮	B		
			・安全、健康に十分留意して活動する。	⑩	B		
			・教科書以外の様々な資料も使用して授業を展開する。	③	B		
	保健	・心身の健康・安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を送るために必要な事項を理解し、知識を身につける。	・単元毎に学習ノートを行わせることによって、理解を深める。	①②③	A	B	
			・単元によっては実践実習を行わせることによって理解を深める。	①②③	B		
			・定期考査、単元プリントを使って理解度を向上させる。	①②③	B		
			・授業内容、方法等について教科内で工夫改善を図る。	①②③	B		
科	芸術	・必要に応じて外部専門家の講義を開催する。	・必要に応じて外部専門家の講義を開催する。	⑥⑨	C	A	コロナ感染の対策をとりながらの授業の工夫。
			・美術については、課題を多面的に設定して、幅広く創造活動を体験することで、感じる力、工夫する力、表現する力を養う。	①②⑰	A		
			・音楽については、音楽の基礎となる知識や技術などを習得させ、実際に活用できる能力を身につけさせる。	①②⑰	A		
	外国語	・基礎学力の向上を図る。 ・家庭学習の習慣をつける。 ・積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。	・授業を通して英語を読む（教科書、副読本、暗唱大会原稿等）、聞く（音声CD、リスニング演習）、書く（エッセイ、リテリング等）、話す（Q&Aやロールプレイ等）機会を増やし、4技能を統合的に育成する工夫をする。	①②③ ⑥	A	A	共通テストに対応できる英語力を養成するための手段を考える。 ・英検受験者数の増加と合格へと導く指導をより強化する。 ・積極的に英語でコミュニケーションを取ろうとする態度を育成するための指導を検討する。
			・早朝や放課後に課外を実施することで基礎英語力の定着を図るとともに発展的な内容も扱い、上位層の英語力向上を目指す。		B		
			・英語学習の動機づけと進路目標実現への一助として英検取得を推進し、特に2次試験対策指導を積極的に行う。		A		
			・課題（暗唱文・副教材等）を与えることで家庭学習の効果的な動機づけを図る。	②③	B		
			・1年間を通して週1回小テストを実施する。評価にも加味するとともに、成績優秀者を年度末に表彰することで、家庭学習の習慣化を図る。		A		
			・ペアワークやグループワークを利用した音読活動やQ&A、発表等のコミュニケーション活動の工夫に努める。	①⑱	A		
	外国語		・「英語表現Ⅰ」と「コミュニケーションⅡ（3年選択）」では少人数の利点を活かして、英語でのコミュニケーションの機会を増やす。		A		

		・「英語表現Ⅰ」ではALTと連携を図りながら、基本的な英語運用力を育成する。		A		
家庭情報	家	・指導計画と指導内容の充実に努める。	・生徒の実態に応じた指導内容の精選と指導時間等の配分を工夫する。 ・ワークシートや課題等の提出により学習成果を確認する。また、実験実習等を取り入れながら学習効果の向上を図る。	①② ①②⑤	A A	A
		・制作活動の工夫を図る。	・目標を持って取り組める教材を取り入れ、達成した喜びを体験させる。	①②⑦	B	
	庭	・安全指導と事故防止に努める。	・施設設備、用具等の点検を十分に行う。 ・実習時の身支度の徹底を行い、安全、衛生面に留意させる。	①	A	
	情 報	・生徒の多様な実態に対応し、一人一人の個性を育て伸ばしていく。	・自ら調べ、まとめ、発表する活動、話し合いや討論の活動などを通して、情報活用の実践力が高まるような場面の時間をより多く作る工夫をする。	①⑦	A	
教 務	教	・学習指導法の工夫と授業研究の推進	・わかりやすい授業を展開するため、指導法や評価方法の研修改善に努める。	①②	B	A
		・授業時間の確保	・授業の充実に努めるためのシラバスを作成する。	①②	A	
		・授業時間の確保	・出張、年休等における授業の確保（振替）に努める。	①	A	
		・校内研修の充実	・人権教育等についての教職員研修会を充実させる。	①	A	
	務	・広報活動	・中学校、地域との連携を図る。（学校説明会、中学校訪問等）	⑦	A	
			・インターネットの活用を図る。（ホームページ等）	⑦	A	
特別活動	特 別 活 動	・学校行事等を通じた帰属意識・協調性の涵養	・生徒を主体とした学校行事の企画・運営を行う。	⑭	B	B
			・クラスマッチ等を通して達成感や達成感を体験させ、クラスの連帯意識を培う。	⑭	A	
			・HR活動等におけるキャリアパスポートの作成と活用を図る。	⑭	B	
		・部活動の活性化	・部活動の部員を確保するとともに活性化を図る。	⑯	B	
生徒指導	生 徒 指 導	・基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	・マナーアップ週間を利用して挨拶等の全般的なマナーの向上を訴える。	⑩	A	A
		・キャリア教育の充実	・家庭と連携し、携帯電話・スマートフォンを正しく利用する態度の育成を図る。	⑩⑬	B	
		・心の教育の充実	・年8回の服装指導で身だしなみの乱れを防ぐ。	⑩	A	
		・交通安全教育の推進	・教員間の連携を密にし、心に問題を抱える生徒の早期発見に努める。 ・交通安全講話等を通し、特に自転車の交通安全を図る。	⑪⑫ ⑬	A B	
進 路 指 導	進 路	・高い目標へ向けた生徒の主体的な進路選択と教師の支援	・生徒がより良い進路目標へ向けて努力できるよう、個別面談や進路相談・支援を積極的に行う。	⑦	A	A
			・的確な各種進路情報を積極的に提供する。（進路情報誌、パンフレット、進路だより等）	⑦⑧	A	
			・インターンシップへの主体的参加を促す。	⑥	A	
	指 導	・進学指導の充実	・平常課外や休業中課外への参加を促す。	⑥	B	
			・課外授業への主体的参加を促す。平常課外、休業中課外の量的、質的向上を目指す。特に3年生は参加者40人超を目指す。	⑨	B	
			・各種模擬試験の積極的利用を図る。1,2年生は年間3回全員が受験し、3年生についても70人超の生徒が受験するよう指導する。 ・最後までしっかり学習する集団づくりの観点からも、共通テストを受験するように指導する（70人目標）。	⑨ ⑨	A A	
図 書	図 書	・学校図書館の整備の推進及び利用の促進	・生徒・教職員からの図書購入希望を積極的に募り、より充実した図書選定に努める。	①②⑤	B	B
			・利用方法の簡略化を図り、より利用しやすい環境を整える。	⑤	A	
			・図書館利用者（貸し出し数）の増加につなげるため、朝の読書週間と年間多読賞の事前の呼びかけに力を入れる。	⑤⑮	B	
			・図書委員会の活動をより充実させ、図書館の美化・整備に努める。	⑤	B	
保健厚生	保 健 厚 生	・学校とその周辺の美化と環境整備	・清掃用具の整備をはかるとともにその整理に努める。	⑮	A	A
			・地域住民を考慮し、学校周辺と通学路、後台駅～五台小学校までの清掃活動をHR単位で実施し、美化意識の高揚を図る。	⑭	A	
			・教室・特別教室の美化、新型コロナ対策の徹底を図る。	⑭	A	
			・各分担地域、場所の清掃の徹底を図る。	⑭		
渉 外	渉 外	・PTA活動の活性化と家庭との緊密な連携関係の構築	・PTA総会、研修会、校外指導等の各種行事への参加率のアップを図る。	⑬	B	B
			・広報紙等の充実に努め、学校と家庭の連携に努める。	⑬	B	
						・ICTを活用した授業の構築、実践 ・コロナ禍における実験実習の工夫、改善 ・観点別評価への取り組み検討 ・高度化した教科書内容への適応や大学入学共通テストへの対策の検討 生徒数確保のための広報活動の工夫。タブレットを活用した授業の研究。観点別評価への取り組みの充実。 コロナ禍の中で生徒に達成感・充実感を感じさせられる生徒主体の行事運営方法の工夫。 ・挨拶等マナー指導の工夫と家庭との連携。 ・生徒の心の問題を早期に発見するための教員間連携の更なる緊密化。 ・課外授業への参加者数が減少傾向なので、積極的に声かけを行う。 ・基礎学力の定着 ・進路行事の実施（コロナ対応） ・選書会のあり方の検討 ・多読賞広報の充実 ・図書委員会活動の活発化 ・業務内容の精選と効率化及び仕事分担の明確化 新型コロナウイルスへの予防を徹底する。郊外清掃をHRで出来るように促す。 ・コロナ禍でのPTA活動をどのように進めていくか

情報	・ICTの推進及び情報セキュリティ体制の構築	・ICT機器を整備し、授業やHR運営においてICT技術を活用する。 ・情報セキュリティ体制の構築に努める。	⑬ ③②②	A A	A	・ポータルサイトの構築 ・成績システムの運営
1 学 年	・基本的生活習慣の確立	・挨拶の励行と、きちんとした服装、言葉遣いを身につけさせる。 ・遅刻防止等、時間の厳守に努めさせる。 ・手帳やPCの活用により、活動や体験等をきちんと記録させ、自己管理能力を高める一助とする。	⑩ ⑩	A B	A	・生徒の自発的、計画的な学習や活動参加の促進 ・基本的なマナーの徹底と問題解決能力、自分の考えを表現する力の育成 ・進学希望者への学習や取り組みに対する適切なサポート ・中・下位層に対して、学習や生活に目的意識を持たせる
	・基礎学力の定着	・予習、復習、課題学習等を中心として、家庭学習や自主学習に毎日継続して取り組み、習慣化を図る。 ・ICTの活用により、自ら学び、探究する力を身につける。 ・課外授業や模擬試験等への積極的な参加を促す。	③ ③ ④	B A A		
	・特別活動への積極的な参加	・部活動や学校行事への積極的な参加を推進し、活力ある学校生活を送らせる。	⑩	A		
	・進路目標の検討及び早期の決定	・個別面談、進路ガイダンス、大学見学会の実施及び的確な進路情報の提供等により、自己の進路について考えさせ、早期決定の支援をする。	⑥⑦⑧	A		
	・「道徳」教育の確立	・生徒一人一人の豊かな心を育て、将来に向けて人生や社会を切り拓いていこうとする道徳的実践力を高める。	⑩⑪	A		
2 学 年	・基本的生活習慣の見直し	・校則を遵守させ、規律ある生活態度を育む。 ・時間の厳守、挨拶の励行。 ・服装、みだしなみ、ことば遣いに注意させる。	⑩ ⑨⑩ ⑩	A	B	・生徒の進路実現を図るために積極的な啓発と学力の充実を目指す指導を行っていく ・宿題の提出率などは80%程度であるが増えた。 ・生徒が主体的に取り組める機会を増やす
	・学力の定着と向上	・予習復習を徹底させ、毎日の授業を大切に。 ・家庭学習や自主学習を毎日継続して取り組ませるとともに、学習の記録を毎日付けさせ、習慣化を図る。	③ ③	B		
	・進路目標の決定と実現に向けての意識の高揚	・校外模試、課外授業、各種検定、校外体験活動に積極的に取り組み、自分の実力を把握し、能力の伸長を図る。 ・自己理解を深めさせ、個性や能力にあった進路を見出す努力をさせる。	④⑥⑦ ⑥⑦	B		
2 学 年	・特別活動や校外体験活動への積極的な参加	・部活動、生徒会活動、学校行事に積極的に取り組ませる。 ・委員会活動、清掃、当番活動を通じて責任感を育成する。	⑭⑮⑯ ⑭⑮⑯	B	B	・進路に向けての具体的対策の細分化
	・修学旅行を実りある行事	・団体行動を通して、協調性や責任感等を育成する。 ・旅行先の歴史や文化を学ぶとともに、平和についての考えを深める。	⑩⑪ ⑤⑭⑯			
3 学 年	・進路を意識した生活の実践	・挨拶の励行と、きちんとした服装、言葉遣いの徹底を図る。 ・時間の厳守に努めさせる。マナーを身につけさせる。	⑩ ⑩	A B	B	・コロナ対策による出席停止数の増加が目立ち、感染予防と学習意欲確保の両立の難しさを感じた。 ・8月中旬～9月期の休校により、総合型・推薦希望の生徒には手厚い指導ができた一方、一般入試生徒への対応が相対的に手薄になってしまった。
	・生徒一人一人の進路目標の実現	・校外模試、課外授業、校外体験活動等に積極的に取り組み、進路目標実現を図る。 ・家庭学習を充実させ、進路目標実現を図る。 ・きめ細かい進路相談及び保護者との緊密な連携により、生徒全員の進路目標実現を図る。	④⑦⑯ ③ ⑦⑧⑫⑬	A B A		
	・特別活動への積極的な参加	・部活動、生徒会活動、学校行事に最高学年として積極的に取り組ませる。 ・委員会活動、清掃、当番活動を通じて最高学年としての責任感を育成する。	⑭⑮⑯ ⑭⑮	B B		
国際 交 流	重する精神の涵養	・海外短期留学の推進を図る。 ・海外からの留学生の積極的な受入の推進を図る。 ・インターネットを利用して、外国の高校などとの交流をし、国際交流の活性化を図る。	⑱⑲ ⑱⑲ ⑳	B B B	B	・コロナ等の状況をふまえた対応策の検討
学習 の 推 進	・自主的、自発的学習の推進 高揚と計画的、継続的学習の習慣化	・多目的学習館（六葉館）の利用を促進する。 ・サテライト講座をはじめとする、共通試験へ向けた教材の利用を促進する。 ・小テストや家庭学習（宿題）の課題を課すことで、学習の習慣化を図る。	③④ ③④ ①	A B B	B	日常の家庭学習の習慣をつけさせること
い じ め 問 題	・いじめの実態把握およびいじめに対する適切な措置	・本校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。 ・教職員間の連携を密にして、生徒への声掛け等を積極的に行い、情報を共有する。 ・SNS等によるトラブルが起こらないよう、啓発及び情報の収集に留意する。 ・生徒主体のいじめ未然が実践できるような手立てと支援を工夫する。	⑫⑬ ⑫⑬ ⑩⑬ ⑩	A A A A		

※評価基準（達成度） 【A】：100～80％ 【B】：79～60％ 【C】59～40％ 【D】：39～20％ 【E】：19～0％